

令和元年7月1日
内閣府地方創生推進室

令和元年度「SDGs未来都市」等の選定について

令和元年度「SDGs未来都市」及び「自治体SDGsモデル事業」について、令和元年7月1日に、下記のとおり選定いたしましたのでお知らせします。

また、同日に令和元年度「SDGs未来都市」選定証授与式を開催いたしました。

記

SDGs未来都市：31都市

自治体SDGsモデル事業：10事業

以上

(添付資料)

- 別紙1 令和元年度 SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業について
- 別紙2 令和元年度 SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業選定都市一覧
- 別紙3 令和元年度 自治体SDGsモデル事業の概要
- 別紙4 地方創生に向けたSDGsの推進について

本件問合せ先：

内閣府地方創生推進室

参事官 遠藤 健太郎

参事官補佐 庄子 純哉

参事官補佐 清水 拓哉

電話：03-5510-2175

FAX：03-3591-8801

令和元年度 SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業について

概要 中長期を見通した持続可能なまちづくりのため、地方創生に資する、地方自治体による持続可能な開発目標 (SDGs) の達成に向けた取組を推進していくことが重要。

地方創生分野における日本の「SDGsモデル」の構築に向け、引き続き、自治体によるSDGsの達成に向けた優れた取組を提案する都市を「SDGs未来都市」として31都市を選定。また、特に先導的な取組を「自治体SDGsモデル事業」として10事業を選定する。※平成30年度においては「SDGs未来都市」として29都市を選定。「自治体SDGsモデル事業」として10事業を選定。これらの取組を支援するとともに、成功事例の普及展開等を行い、地方創生の深化につなげていく。



令和元年度 SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業選定都市一覧

緑字：SDGs未来都市（自治体SDGsモデル事業含む）
 青字：SDGs未来都市

※県が選定されている場合は県全域を着色。



	都市名	提案タイトル
自治体SDGsモデル事業含む	福島県郡山市	SDGsで「広め合う、高め合う、助け合う」こおりやま広域圏～次世代につながる豊かな圏域の創生～
	神奈川県小田原市	人と人とのつながりによる「いのちを守り育てる地域自給圏」の創造
	新潟県見附市	住んでいるだけで健康で幸せになれる健康都市の実現～「歩いて暮らせるまちづくり」ウォーカブルシティの深化と定着～
	富山県南砺市	「南砺版エコレレッジ事業」の更なる深化～域内外へのプランニング強化と南砺版地域循環共生圏の実装～
	福井県鯖江市	持続可能なめがねのまちさばえ～女性が輝くまち～
	京都府舞鶴市	便利な田舎くらし『ヒト、モノ、情報、あらゆる資源がつながる“未来の舞鶴”』
	岡山県西粟倉村	森林ファンドの活用で創出するSDGs未来村
	熊本県熊本市	熊本地震の経験と教訓をいかした災害に強い持続可能なまちづくり
	鹿児島県大崎町	大崎リサイクルシステムを起点にした世界標準の循環型地域経営モデル
	沖縄県恩納村	SDGsによる「サンゴの村宣言」推進プロジェクト～「サンゴのむらづくり行動計画」の高度化による世界一サンゴと人に優しい持続可能な村づくり～
SDGs未来都市	岩手県陸前高田市	ノーマライゼーションという言葉のいらぬまちづくり
	栃木県宇都宮市	SDGsに貢献する持続可能な“うごく”都市・うつのみやの構築
	群馬県みなかみ町	水と森林と人を育む みなかみプロジェクト 2030～持続可能な発展のモデル地域“BR”として～
	埼玉県さいたま市	SDGs国際未来都市・さいたま2030モデルプロジェクト～誰もが住んでいることを誇りに思える都市へ～
	東京都日野市	市民・企業・行政の対話を通じた生活・環境課題産業化で実現する生活価値(QOL)共創都市 日野
	神奈川県川崎市	成長と成熟の調和による持続可能なSDGs未来都市かわさき
	富山県	環日本海地域をリードする「環境・エネルギー先端県とやま」
	石川県小松市	国際化時代にふるさとを未来へつなぐ「民の力」と「学びの力」～PASS THE BATON～
	愛知県	SDGs未来都市あいち
	愛知県名古屋市	SDGs未来都市～世界に冠たる「NAGOYA」～の実現
	愛知県豊橋市	豊橋からSDGsで世界と未来につながる水と緑の地域づくり
	滋賀県	世界から選ばれる「三方よし・未来よし」の滋賀の実現
	奈良県生駒市	いこまSDGs未来都市～住宅都市における持続可能モデルの創出～
	奈良県三郷町	世界に誇る！！人にもまちにもレジリエンスな「スマートシティSANGO」の実現
	奈良県広陵町	「広陵町産業総合振興機構（仮称）」の産官学民連携による安全・安心で住み続けたいまちづくり
	和歌山県和歌山市	持続可能な海社会を実現するリノベーション先進都市
	鳥取県智頭町	中山間地域における住民主体のSDGsまちづくり事業
	鳥取県日南町	第一次産業を元気にする～SDGsにちなんチャレンジ2030～
	福岡県大牟田市	日本の20年先を行く10万人都市による官民協働プラットフォームを活用した「問い」「学び」「共創」の未来都市創造事業
	福岡県福津市	市民共働で推進する幸せのまちづくり～津屋崎スタイル～を世界へ発信
鹿児島県徳之島町	あこがれの連鎖と幸せな暮らし創造事業	

出典：国土地理院ウェブサイト（<https://maps.gsi.go.jp/>）の白地図をもとに作成

※都道府県・市区町村コード順

令和元年度 S D G s 未来都市選定都市一覧

No.	提案者名	提案全体のタイトル
1	岩手県陸前高田市	ノーマライゼーションという言葉のいらぬまちづくり
2	福島県郡山市	S D G s で「広め合う、高め合う、助け合う」こおりやま広域圏 ～次世代につなぐ豊かな圏域の創生～
3	栃木県宇都宮市	S D G s に貢献する持続可能な“うごく”都市・うつのみやの構築
4	群馬県みなかみ町	水と森林と人を育む ^{もり} みなかみプロジェクト 2030 ～持続可能な発展のモデル地域“B R”として～
5	埼玉県さいたま市	S D G s 国際未来都市・さいたま2030モデルプロジェクト ～誰もが住んでいることを誇りに思える都市へ～
6	東京都日野市	市民・企業・行政の対話を通じた生活・環境課題産業化で実現する生活価値(Q O L)共創都市 日野
7	神奈川県川崎市	成長と成熟の調和による持続可能な S D G s 未来都市かわさき
8	神奈川県小田原市	人と人とのつながりによる「いのちを守り育てる地域自給圏」の創造
9	新潟県見附市	住んでいるだけで健康で幸せになれる健幸都市の実現 ～「歩いて暮らせるまちづくり」ウォークアブルシティの深化と定着～
10	富山県	環日本海地域をリードする「環境・エネルギー先端県とやま」
11	富山県南砺市	「南砺版エコビレッジ事業」の更なる深化 ～域内外へのブランディング強化と南砺版地域循環共生圏の実装～
12	石川県小松市	国際化時代に ふるさとを未来へつなぐ「民の力」と「学びの力」 ～PASS THE BATON～
13	福井県鯖江市	持続可能なめがねのまちさばえ～女性が輝くまち～
14	愛知県	S D G s 未来都市あいち
15	愛知県名古屋市	S D G s 未来都市 ～世界に冠たる「NAGOYA」～ の実現
16	愛知県豊橋市	豊橋から S D G s で世界と未来につなぐ水と緑の地域づくり
17	滋賀県	世界から選ばれる「三方よし・未来よし」の滋賀の実現
18	京都府舞鶴市	便利な田舎ぐらし『ヒト、モノ、情報、あらゆる資源がつながる“未来の舞鶴”』
19	奈良県生駒市	いこま S D G s 未来都市～ 住宅都市における持続可能モデルの創出～
20	奈良県三郷町	世界に誇る！！ 人にもまちにもレジリエンスな「スマートシティSANGO」の実現
21	奈良県広陵町	「広陵町産業総合振興機構（仮称）」の産官学民連携による安全・安心で住み続けたいまちづくり
22	和歌山県和歌山市	持続可能な海社会を実現するリノベーション先進都市
23	鳥取県智頭町	中山間地域における住民主体の S D G s まちづくり事業
24	鳥取県日南町	第一次産業を元気にする ～ S D G s にちなんチャレンジ 2 0 3 0 ～
25	岡山県西粟倉村	森林ファンドの活用で創出する S D G s 未来村
26	福岡県大牟田市	日本の20年先を行く10万人都市による官民協働プラットフォームを活用した「問い」「学び」「共創」の未来都市創造事業
27	福岡県福津市	市民共働で推進する幸せのまちづくり ～津屋崎スタイル～を世界へ発信
28	熊本県熊本市	熊本地震の経験と教訓をいかした災害に強い持続可能なまちづくり
29	鹿児島県大崎町	大崎リサイクルシステムを起点にした世界標準の循環型地域経営モデル
30	鹿児島県徳之島町	あこがれの連鎖と幸せな暮らし創造事業
31	沖縄県恩納村	S D G s による「サンゴの村宣言」推進プロジェクト ～「サンゴのむらづくり行動計画」の高度化による世界一サンゴと人に優しい持続可能な村づくり～

令和元年度 自治体SDGsモデル事業選定都市一覧

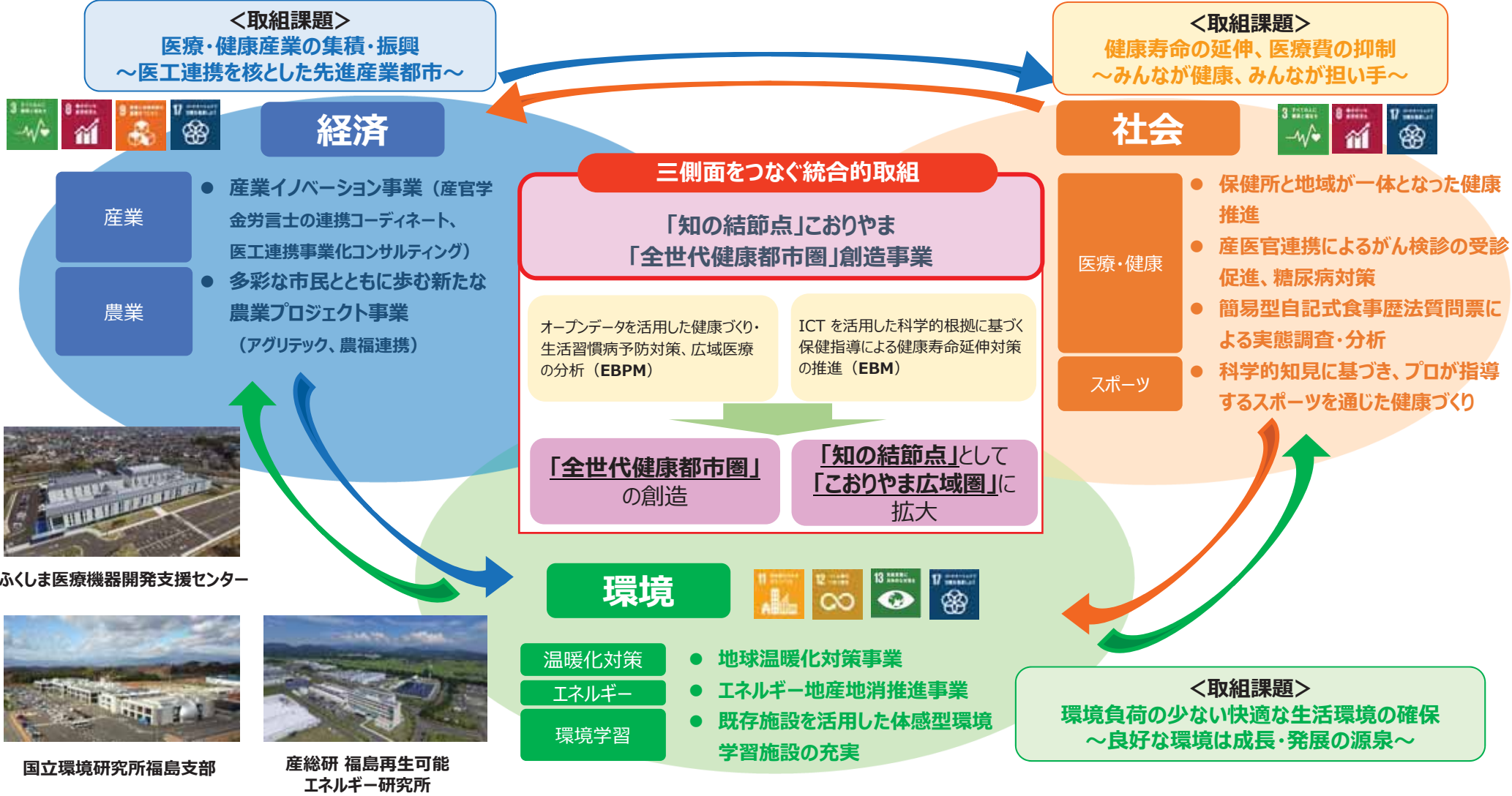
No.	提案者名	自治体SDGsモデル事業タイトル
1	福島県郡山市	SDGs 体感未来都市 こおりやま
2	神奈川県小田原市	人と人とのつながりによる「いのちを守り育てる地域自給圏」の創造
3	新潟県見附市	「歩いて暮らせるまちづくり」ウォークブルシティの深化と定着
4	富山県南砺市	「南砺版エコビレッジ事業」の更なる深化 ～域内外へのブランディング強化と南砺版地域循環共生圏の実装～
5	福井県鯖江市	女性が輝く「めがねのまちさばえ」 ～女性のエンパワーメントが地域をエンパワーメントする～
6	京都府舞鶴市	『ヒト、モノ、情報、あらゆる資源が つながる“未来の舞鶴”』創生事業
7	岡山県西粟倉村	森林ファンドと森林RE Designによる百年の森林事業Ver.2.0
8	熊本県熊本市	熊本地震の経験と教訓をいかした地域（防災）力の向上事業
9	鹿児島県大崎町	大崎システムを起点にした世界標準の循環型地域経営モデル
10	沖縄県恩納村	「サンゴの村宣言」SDGsプロジェクト

※都道府県・市区町村コード順

福島県郡山市

SDGs 体感未来都市 こおりやま

「健康」をキーワードに「経済」、「社会」、「環境」において、持続可能なまちづくりに向けた先導的取組を実施。オープンデータを活用した広域医療等の分析（EBPM）及びICTを活用した健康寿命延伸対策（EBM）を進めることで医療・健康産業の集積、健康寿命延伸・医療費抑制、環境負荷の少ない快適な生活環境の確保等を進める。



神奈川県小田原市

人と人とのつながりによる「いのちを守り育てる地域自給圏」の創造

恵まれた自然環境、地勢条件、歴史的に育まれてきた技や人、地域の絆などの社会的資源を強みとし、「おだわら市民学校」によるひとづくりやつながりの強化を中核に、ポイント循環による「つながりの見える化」、Society5.0の実証研究を通じて、「いのちを守り育てる地域自給圏」を創造し、豊かで、安全で、持続可能な暮らしを実現する。

<取組課題>
一次産業の基盤強化と暮らしへの定着
観光(交流)による地域活性化

<取組課題>
地域コミュニティ組織の強化
地域資源を生かした協働の推進

経済

ものづくり

- 伝統的な地場産業の支援と育成
- 高技術・高品質のものづくりのPR促進

農林水産業

- 有機農業モデルタウンの取組
- 「木づかい」のまちづくり
- 農産物・水産物の地産地消とブランド化

三側面をつなぐ統合的取組

“現場での学びと実践の循環”による人材・担い手育成と地域課題の解決 → 公・共・私 のベストミックス

プラットフォームを介した循環

おだわら市民学校

実践者

受講者

活動の現場

実践

ICTを活用した民間企業・県との連携 “つながりの見える化”

Society5.0の実証研究 “風の谷プロジェクト”

社会

地域福祉

- ケアタウンの推進

地域コミュニティ

- スクールコミュニティの形成
- 地域コミュニティの強化

シニア活躍

- プロダクティブ・エイジングの推進

農産物のブランド化

再生可能エネルギーの取組

環境

環境共生

- 森里川海オールインワンの環境先進都市としてのブランド確立

環境再生・保全活動

- 地域の環境再生・保全活動の推進
- 森林の再生
- 里地里山の再生と整備
- 水辺環境の整備促進

エネルギー

- エネルギーの地域自給に向けた取組

子どもの居場所 (プレイパーク)

身近な地域コミュニティ

ものづくりの技術

安全な食糧

生活を変えるエネルギー

住まいを作る素材と技術

お互いを支え合つクア(画を合む)

いのちを守り育てる地域自給圏

<取組課題>
豊かな自然を次の世代へ引き継ぐ
エネルギーの地域自給

出かけたくなる場所の創出や歩きたくなる歩行環境の整備、都市のコンパクト化、また、過度な自動車依存からの脱却を目指す公共交通の整備、自然災害への備えを統合的に進めることで、「歩いて暮らせるまちづくり」を市民に定着させ、「住んでいるだけで健康で幸せになれる健幸都市」を実現する。

＜取組課題＞
出かけたくなる場所の創出

＜取組課題＞
歩行環境の整備
都市機能の集約、街のコンパクト化

経済

- まちづくり
 - まちなか賑わい創出事業
 - 総合型地域スポーツクラブ事業補助
- 健康



ウォーキングイベントの様子



コミュニティバス
(市街地内を循環運行)



市民協働による植栽活動の様子

三側面をつなぐ統合的取組

「歩いて暮らせるまちづくり」ウォーカブルシティの深化と定着

グリーンスローモビリティの活用検討

- ・歩行量の増加
- ・健康寿命の延伸

学校教育を通じた子どもたちへのSDGs教育

- ・地域への浸透
- ・自然災害の強靱化

ウェルネスタウンの拠点化整備

- ・交流で賑わい創出
- ・CO₂削減

社会

- 交通
 - 車両誘導看板設置事業
- 健康
 - 健幸ウォーキングコース路面標示
- 環境保全
 - 市民協働による植栽活動（環境面の取組としても整理）
 - みつけイングリッシュガーデンの管理運営（環境面の取組としても整理）
- まちづくり
 - 立地適正化計画策定事業
 - 空き家バンク

環境

- 交通
 - コミュニティバス事業
 - デマンド型乗り合いタクシー運行事業
 - バス停サイン更新事業
- 防災
 - 防災訓練の実施
 - 自主防災組織補助事業
 - 防災スクール事業
 - ハザードマップ改訂版の作成

＜取組課題＞
自動車依存からの脱却
自然災害への備え



「南砺版エコビレッジ事業」の更なる深化 ～域内外へのブランディング強化と南砺版地域循環共生圏の実装～

南砺市の土徳文化を次世代に継承する取組みや支え合いによるまちづくりの取組を通して、地域資源の循環や相互補完が可能となる人材育成プログラムや住民参加による自治組織形成を促進するとともに、これらを基金運営等により支えることで、SDGsおよび「南砺版エコビレッジ事業」を更に深化させ「一流の田舎」を実現する。

＜取組課題＞

「やりたいこと」が「できる」地域を実現

＜取組課題＞

心豊かで安心して暮らすことができる社会を実現
ひとと出会い、ひとと深くつながるまちを実現

経済



産業創出

人材育成

森林

- 「オーガニック街道」の整備
- 伝統産業のリデザイン
「南砺ブランド商品開発支援」
- クリエイター育成マッチング事業
- 森林資源を活用したビジネス再生



クリエイタープラザ
(ブランド商品開発、クリエイターの拠点)



森林資源エコシステム
(ベルト工場)

三側面をつなぐ統合的取組

文化と教育の連携・住民自治の再構築
コミュニティファンドの創出

土徳文化

文化伝承や
発信による
地域の誇り醸成

相互補完・循環

南砺幸せ
未来基金

活動資金や
人的ネットワーク等
を支援

小規模
多機能自治

住民参加による
真の住民自治の
再構築

環境

エネルギー

廃棄物

人材育成

- 森林資源エコシステム構築
- 森里川海の連携「マイクロプラスチック、海洋汚染抑制」
- いのちの森をつなぐ次世代人材の育成
「森の学校」「森の保育園」の創設

社会

観光・歴史

医療・介護
福祉

住宅

教育

- 世界遺産合掌造り家屋の保存、茅場再生
- 地域の助け合いを育む
「地域包括ケアシステム」
- 新たな暮らし方の提案
「エコビレッジ住宅ゾーン事業」
- 小規模校や複式学級すべての人に教育を
「学校間をつなぐ遠隔協働学習」

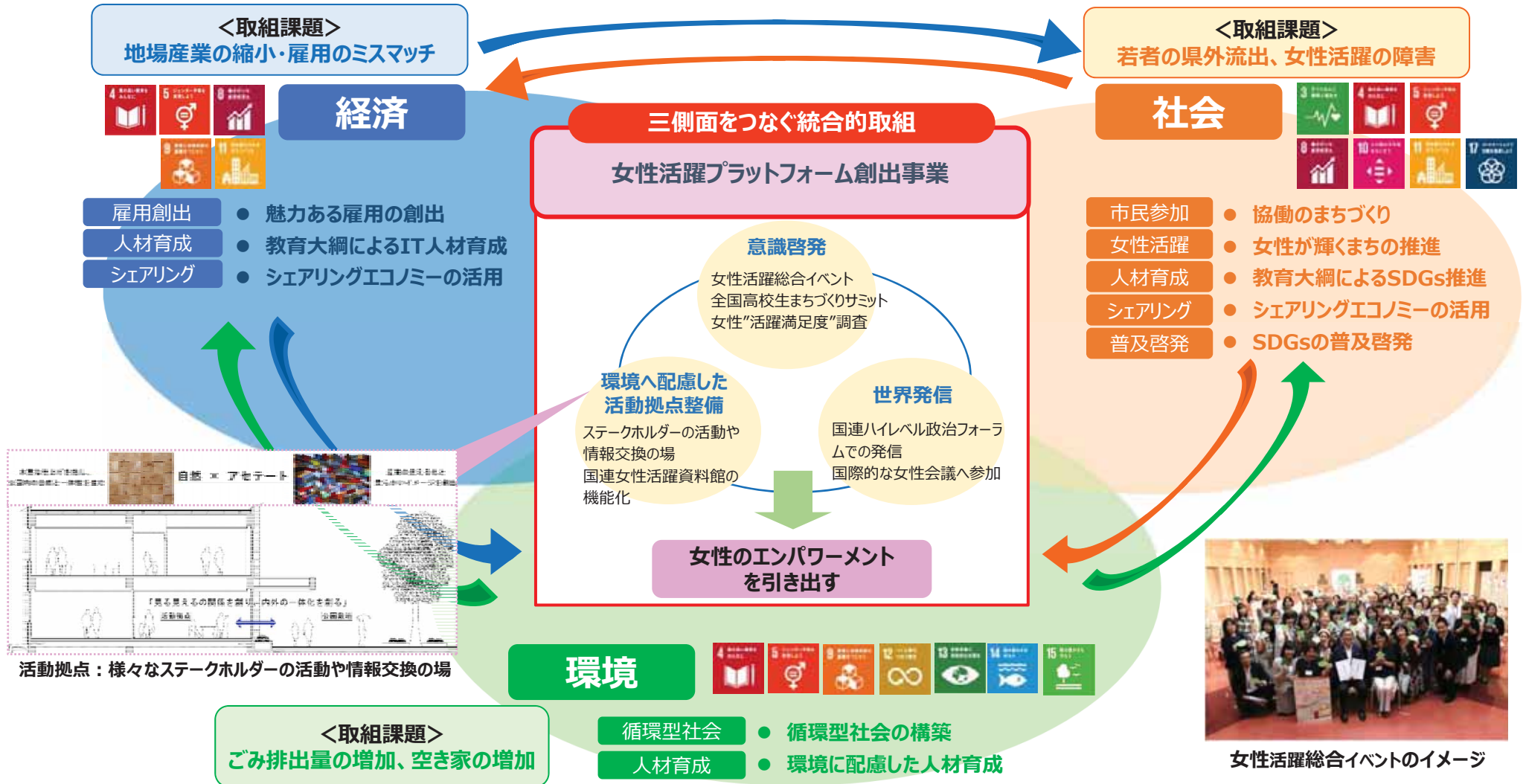


地域包括ケアシステム
(住民主体のミニデイサービスでの軽運動)

＜取組課題＞

地域資源を活用・循環させ
ワクワクする「懐かしい未来を実現」

女性のエンパワーメントを生み出すために、居場所と出番の創出および障害となるインポスター症候群等の研究・対策に取り組む。鯖江市の女性活躍推進施設である「夢みらい館・さばえ」の一部を活動拠点とし、様々なステークホルダーの活動や情報交換を支援するとともに、国内外に向けて鯖江市の取り組み状況を発信することで横展開も促進。



AIやICTなど先進技術の活用により日常生活の利便性向上や都市機能の効率的利用、ヒトとヒトのつながり強化、社会的弱者等の社会参画等を進め、新たな価値創造によりまちの持続可能性を高める「舞鶴版Society5.0」を推進し、未来型の便利ないなか暮らし『ヒト、モノ、情報、あらゆる資源がつながる“未来の舞鶴”』を実現。

＜取組課題＞
地域経済の維持・拡大

＜取組課題＞
安心して生活できる環境の維持

経済

社会

三側面をつなぐ統合的取組

舞鶴版Society5.0実装推進事業

- ① J & Jとの連携による舞鶴版SDGsPR促進事業
- ② 共助による移動手段 (meemo (仮称)) 導入による実証実験

資源をつなぎ活用することで自立と共生を促進

決済データ/交通データ/
再エネデータ/マッチングデータ等

連携

民間企業
教育機関等
情報の
オープン化

- | | |
|---|--|
| ① J & Jとの連携による舞鶴版SDGsPR促進事業
コワーキングスペース (株) J & J 事業創造が運営) による交流やIT人材育成 | ② 共助による移動手段等導入による実証実験
オムロンソーシャルソリューションズ(株)と進める乗り合い等マッチングサービスによる繋がる機会の創出 |
|---|--|

環境

人流・物流

農業

行政運営

- 京都舞鶴港スマート・エコ・エネルギーポート化推進事業
- 万願寺甘とう等におけるスマート農業の展開
- AIやRPAを活用した行政の効率化

交通

ガバナーシティ

人づくり

- MaaS 導入のまち
- 農福連携を通じた社会的弱者の社会参画促進
- 舞鶴版Society5.0 を担う未来創造人材の育成



子ども達へのプログラミング教室



赤れんがパークに設置したコワーキングスペース

スマート・エコ・エネルギーポート化による京都舞鶴港の価値の拡大

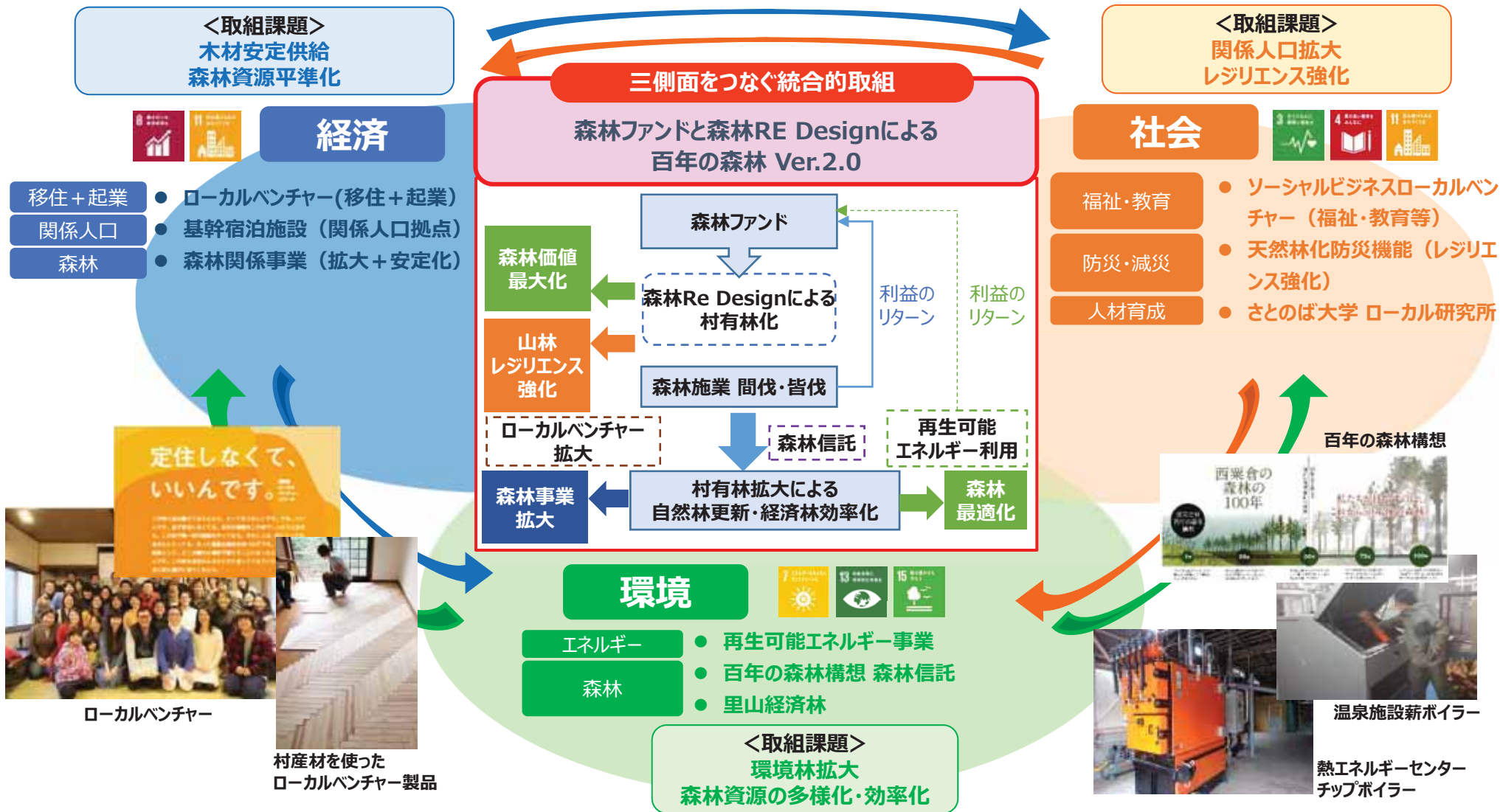
エネルギー

循環型社会
適応策

- Re100 宣言 (再生可能エネルギーの地産地消実現)
- ICTの活用による循環型社会形成の推進
- 産官学連携による防災・減災システム導入

＜取組課題＞
舞鶴版「地域循環共生圏」の創造

森林信託事業による森林の集約化や、森林経営にそぐわない民有林について経済価値を判定した上での公有林化等を通し、地域全体の森林価値の最大化と最適化を目指す。資金調達にあたっては森林ファンドを組成するとともに、投資家を関係人口として位置づけ巻き込むことで、地域の持続可能性を向上させる事業にも好影響を与える。



平成28年に発生した熊本地震での経験をいかし、自主自立のまちづくりを行う「地域主義」という基本理念にもとづいた「地域（防災）力の向上事業」により地域単位の防災力を高めるとともに、地域エネルギーの地産地消、EVによる電力供給、EVバスの導入促進等によりエネルギー（電力）を核としたライフラインの強靱化を促進。

＜取組課題＞
新しい熊本の成長をけん引する
地域経済の活性化

＜取組課題＞
災害時に力を発揮する
地域コミュニティの活性化

経済

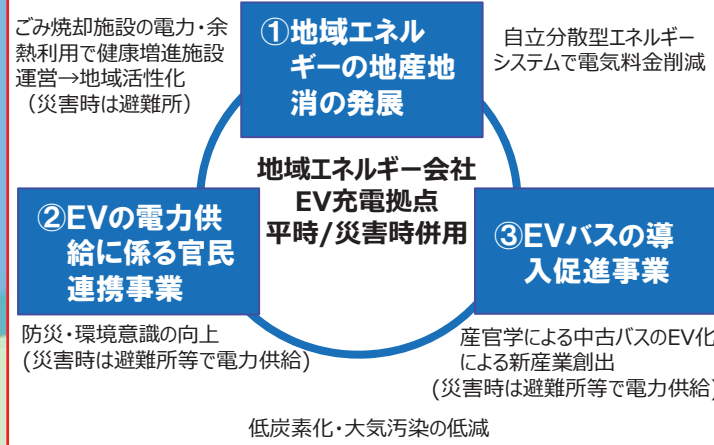
社会

三側面をつなぐ統合的取組

ライフライン強靱化プロジェクト

- 農業
 - 日本一の園芸産地づくりの推進
 - くまもと食の復興PR・ブランド化や地産地消の推進
- エネルギー
 - EVバスをはじめとする新産業の創出支援
- ヘルスケア
 - 医工連携によるヘルスケア産業の振興
- 観光
 - 自然環境や歴史施設、復興過程をいかした観光の振興

- 健康
 - 健康を軸とした自主自立のまちづくり
 - 避難所運営委員会設置と防災士養成
 - 学校での防災教育、ESDの推進
- 防災
 - 災害時要援護者対策と地域包括ケアの構築
 - 基幹公共交通軸の強化とバス路線網再編



環境

- 自然環境
 - 地下水の質・量の保全と地域循環
 - マンホールトイレの設置等による避難所環境の向上
- 防災・減災
 - 官民連携による防災井戸や電力の確保

＜取組課題＞
自然環境をいかした
防災・減災対策の強化

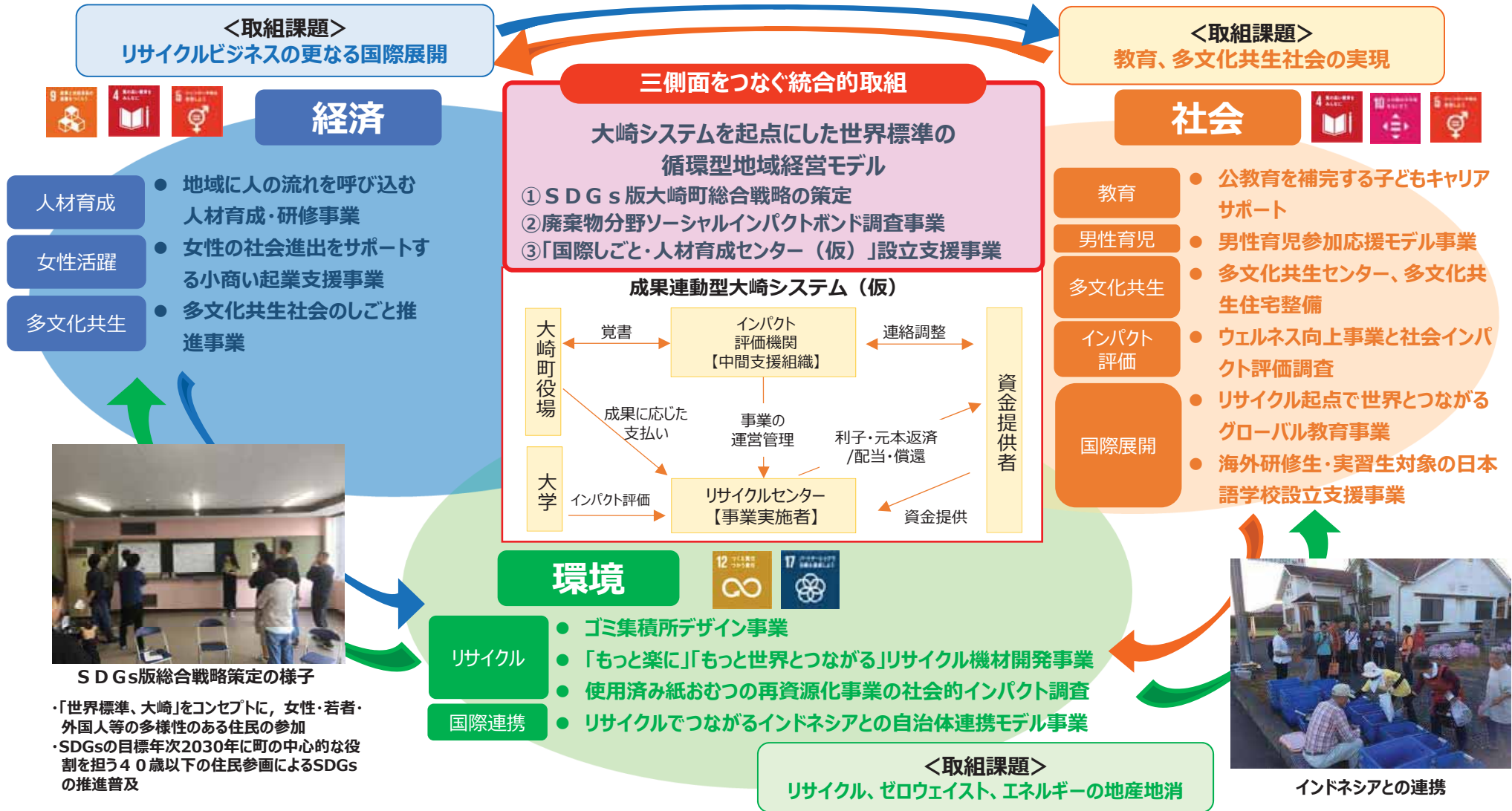


復旧中の熊本城



大規模災害時に充電拠点からEV、EVバスを避難所等へ

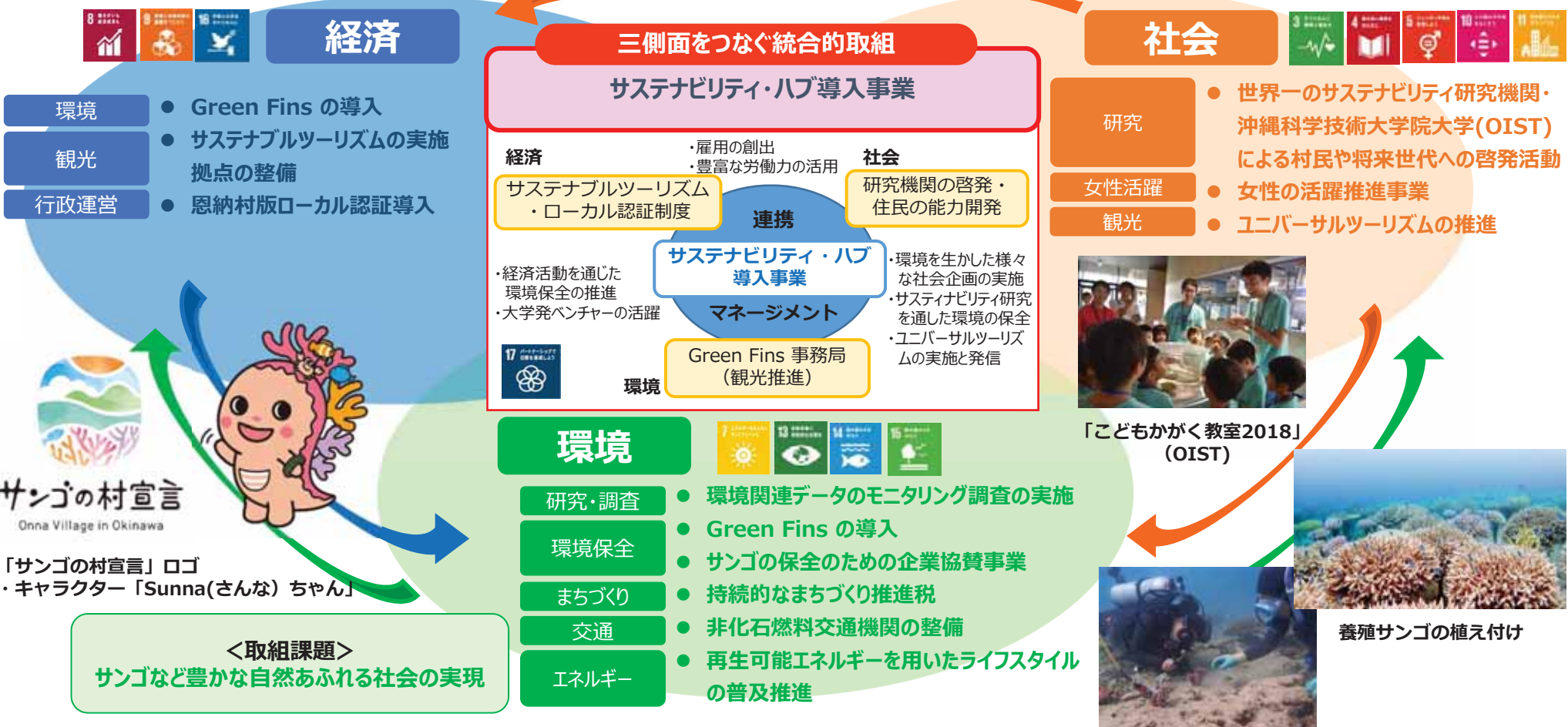
大崎システムを起点とした世界の人口一万人地域で応用可能な循環型地域経営モデルの確立に向けて、手間がかかるリサイクル、産業の担い手不足、多文化共生社会への対応等の課題解決アプローチとして国際化、地域内外連携、人材育成を図る。そのための統合的取組として多様性のある人材を集めてSDGs版総合戦略策定等の事業をおこなう。



サンゴをはじめとする豊かな自然環境の保全により、観光産業の高付加価値化を図り、その収益を村民に還元する仕組みを構築する。サステナブルツーリズムの実現や、将来世代の育成と全員参加型社会の実現、サンゴなど豊かな自然あふれる社会の実現に向けて各主体が連携するサステナビリティ・ハブ導入事業で相乗効果を生み出す。

<取組課題>
サステナブルツーリズムの実現

<取組課題>
将来世代の育成と全員参加型社会の実現



地方創生に向けたSDGsの推進について



内閣府地方創生推進事務局

SDGs (持続可能な開発目標)

- 2015年9月の国連サミットで全会一致で採択。
- 「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のための2030年を年限とする17の国際目標 (その下に169のターゲット, 232の指標が決められている)。

1. 普遍性	先進国を含め、 <u>全ての国が行動</u>
2. 包摂性	人間の安全保障の理念を反映し、「 <u>誰一人取り残さない</u> 」
3. 参画型	<u>全てのステークホルダーが役割を</u>
4. 統合性	経済・社会・環境に <u>統合的に取り組む</u>
5. 透明性	<u>定期的にフォローアップ</u>



【8つの優先課題と具体的施策】

①あらゆる人々の活躍の推進

②健康・長寿の達成

③成長市場の創出、地域活性化、科学技術イノベーション

④持続可能で強靱な国土と質の高いインフラの整備

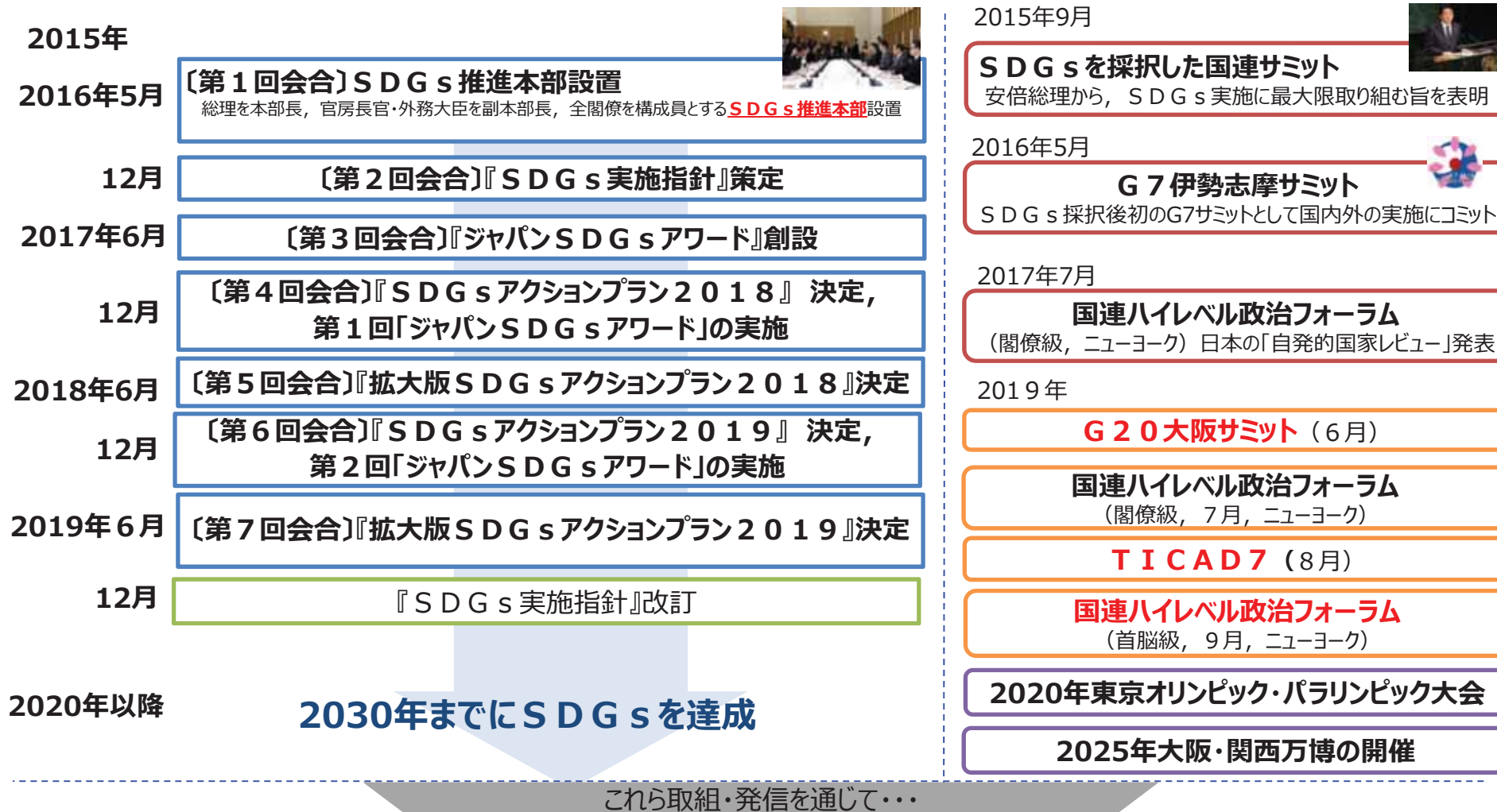
⑤省・再生可能エネルギー、気候変動対策、循環型社会

⑥生物多様性、森林、海洋等の環境の保全

⑦平和と安全・安心社会の実現

⑧SDGs実施推進の体制と手段

SDGs実施に関する国内基盤の整備及び政府の具体的取組、今後の発信・展開

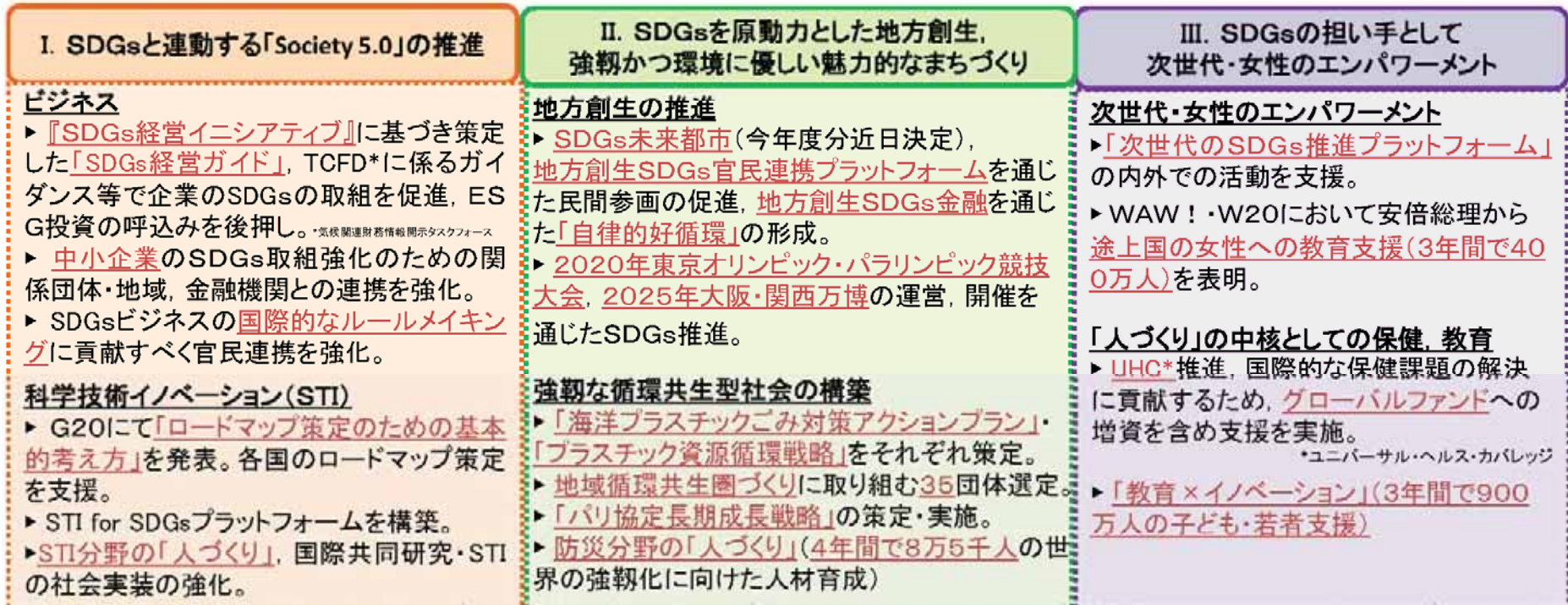


- ◆一層の普及・啓発活動を通じて，全国津々浦々までSDGsの認知度を上げる。
- ◆SDGsを具体的な行動に移す企業・地方を，政府の各種ツールを活用して後押し。
- ◆官民のベストプラクティスを通じて得られたSDGs推進の理念・手法・技術を，国内外に積極展開。

SDGsが創出する市場・雇用を取り込みつつ，国内外のSDGsを同時に達成し，日本経済の持続的な成長につなげていく。

(参考)『拡大版SDGsアクションプラン2019』のポイント

- 日本は、豊かで活力のある「誰一人取り残さない」社会を実現するため、一人ひとりの保護と能力強化に焦点を当てた「人間の安全保障」の理念に基づき、世界の「国づくり」と「人づくり」に貢献。SDGsの力強い担い手たる日本の姿を国際社会に示す。
- 国内実施・国際協力の両面において、次の3本柱を中核とする「日本のSDGsモデル」をG20大阪サミット、TICAD7、SDGサミット等の機会を活用して、国際社会に共有・展開。その上で、本年中にこれらの各種取組を統合・発展させる形で「SDGs実施指針」を改訂。



地方公共団体における持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取組の推進

◆まち・ひと・しごと基本方針2019（令和元年6月21日閣議決定） ※抜粋

○さらに、第2期の地方創生においては、持続可能な開発目標（SDGs）の理念（「誰一人取り残さない」社会の実現）を踏まえ、SDGsを原動力とした地方創生の推進に向け、地方公共団体のみならず、民間企業、金融機関などの多様なステークホルダーにおける一層の浸透・主流化を図る。その上で、全国の地方公共団体等が地域課題解決に向けた取組を推進するに当たり、経済・社会及び環境の統合的向上に取り組むことで相乗効果を創出することが期待されることから、多様なステークホルダーの連携による地方創生SDGsに向けた「自律的好循環」の形成を進めていく。

1 地方公共団体におけるSDGsの普及促進活動の展開

- 国際的なフォーラムの開催や国際会議などの機会を捉え、都市間ネットワークの形成を支援
- 地方創生に向けた日本の「SDGsモデル」を国内外に発信

2 地方公共団体によるSDGs達成のためのモデル事例の形成

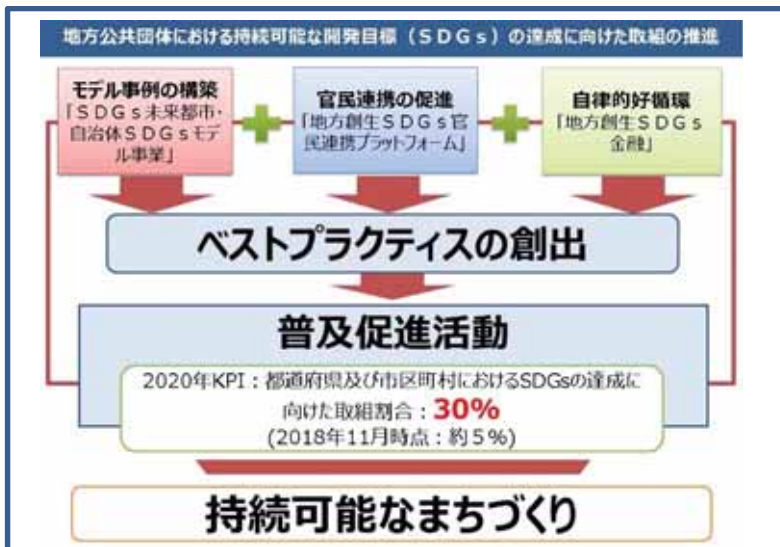
- 引き続き地方公共団体によるSDGsの達成に向けた取組を公募し、都市・地域を選定
- 既に選定した都市も含め、関係省庁により強力に支援し、モデル事例を形成

3 「地方創生SDGs官民連携プラットフォーム」を通じた民間参画の促進

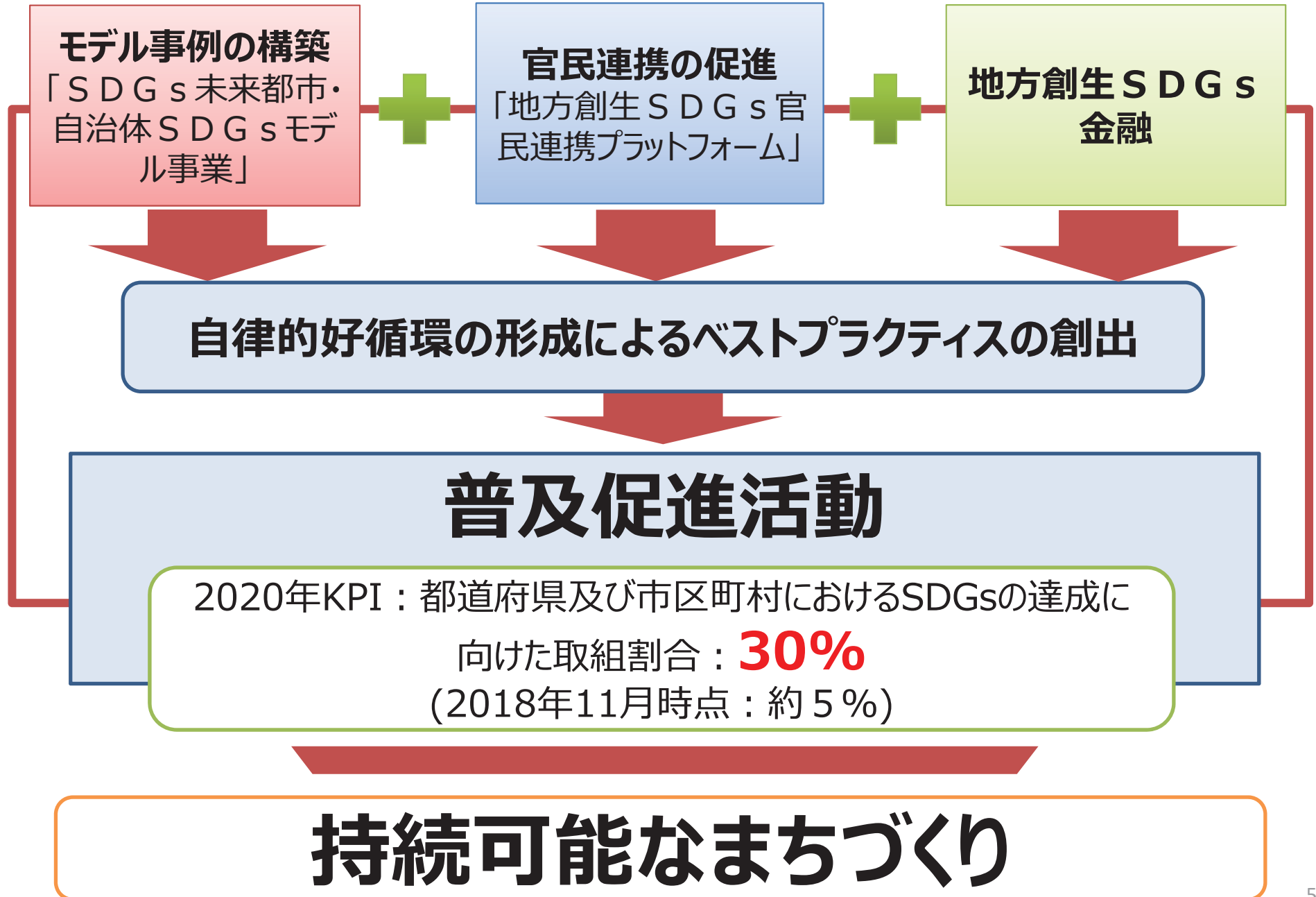
- 「地方創生SDGs官民連携プラットフォーム」について、より多くのステークホルダーが参画しやすくなるよう検討を行う
- SDGsの達成に向けたサステナブル・ツーリズム（持続可能な観光）の考え方についても推進を図る

4 「地方創生SDGs金融」の推進

- 多様なステークホルダーの連携による地方創生SDGsに向けた「自律的好循環」の形成
- 資金の流れを地域事業者や地域経済に還流させ、地方創生につながる「地方創生SDGs金融」の先進的取組事例の調査・検討や、その普及展開を図る



地方公共団体における持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取組の推進



地方創生における自治体SDGs推進の意義

- 地方創生の深化に向けては、**中長期を見通した持続可能なまちづくりに取り組むことが重要**
- 自治体におけるSDGsの達成に向けた取組は、地方創生の実現に資するもの**であり、その取組を推進することが必要

自治体 SDGsの推進

- ✓ 将来のビジョンづくり
- ✓ 関係者（ステークホルダー）との連携
- ✓ 体制づくり
- ✓ 情報発信と成果の共有
- ✓ 各種計画への反映
- ✓ ローカル指標の設定

経済

三側面を統合する施策推進

社会

環境

人々が安心して暮らせるような、持続可能なまちづくりと地域活性化を実現
地方創生成功モデルの国内における水平展開・国外への情報発信

地方創生 の目標

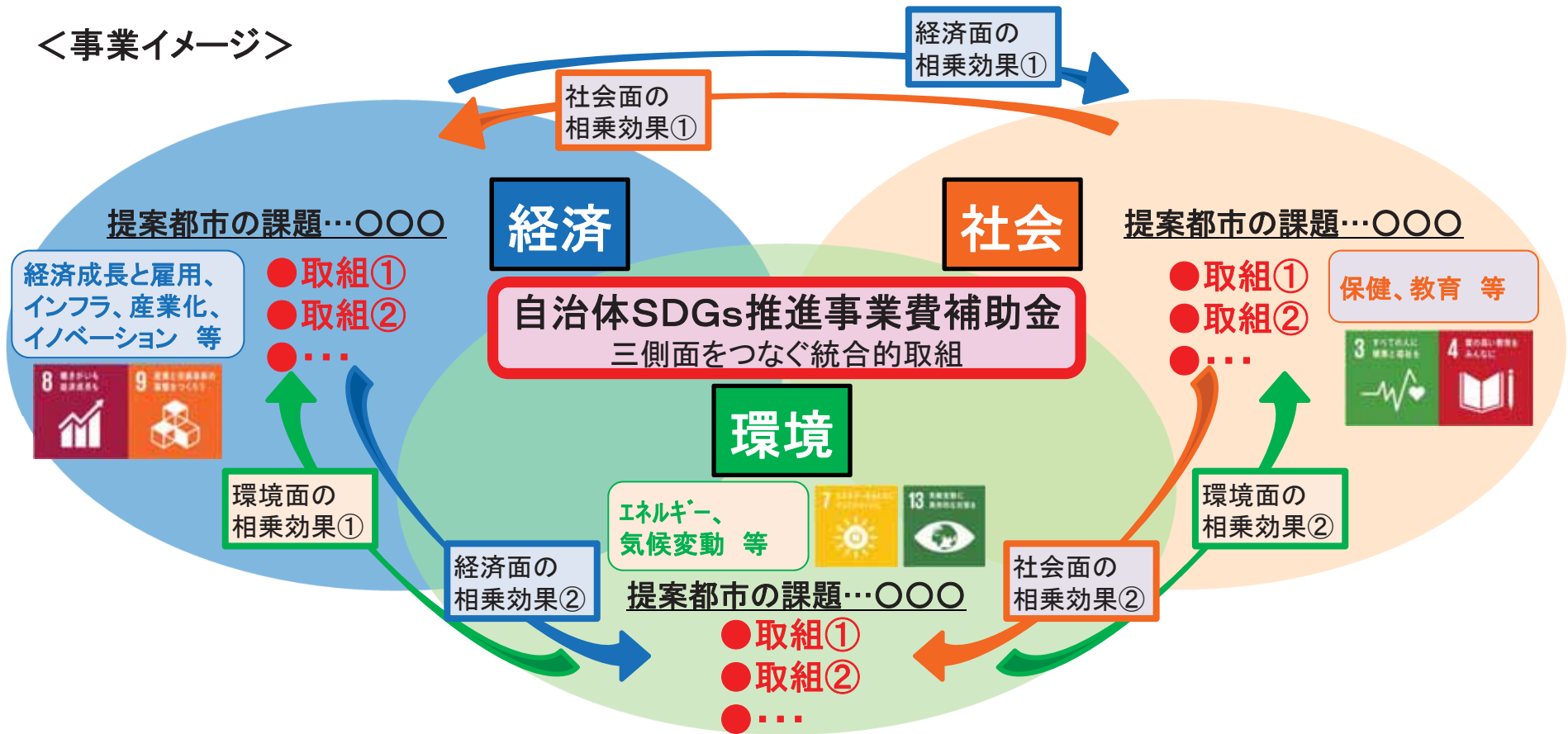
- ✓ 人口減少と地域経済縮小の克服
- ✓ まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立

自治体SDGsモデル事業について

モデル事業とは

SDGsの理念に沿った統合的取組により、経済・社会・環境の三側面における新しい価値創出を通して持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い先導的な取組であって、多様なステークホルダーとの連携を通し、地域における自律的好循環が見込める事業を指す。

<事業イメージ>



SDGsのゴールについては、提案都市の課題に応じて選択



平成30年度 SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業 選定都市一覧

緑字：SDGs未来都市（自治体SDGsモデル事業含む）

青字：SDGs未来都市

※道県が選定されている場合は道県全域を着色。



出典：国土地理院ウェブサイト (<https://maps.gsi.go.jp/>) の白地図をもとに作成

	都市名	提案タイトル
自治体SDGsモデル事業含む	北海道ニセコ町	環境を生きし、資源、経済が循環する自治のまち「サステイナブルタウンニセコ」の構築
	北海道下川町	未来の人と自然へ繋ぐしもかわチャレンジ2030
	神奈川県	いのち輝く神奈川 持続可能な「スマイル100歳社会」の実現
	神奈川県横浜市	SDGs未来都市・横浜 ～“連携”による「大都市モデル」創出～
	神奈川県鎌倉市	持続可能な都市経営「SDGs未来都市かまくら」の創造
	富山県富山市	コンパクトシティ戦略による持続可能な付加価値創造都市の実現
	岡山県真庭市	地域エネルギー-自給率100% 2030“SDGs”未来都市真庭の実現～永続的に発展する農山村のモデルを目指して（私がわたしらしく生きるまち）～
	福岡県北九州市	北九州市SDGs未来都市
	長崎県壱岐市	壱岐活き対話型社会「壱岐（粋）なSociety5.0」
	熊本県小国町	地熱と森林の恵み、人とのつながりがもたらす持続可能なまちづくりを目指して
SDGs未来都市	北海道	北海道価値を活かした広域SDGsモデルの構築
	北海道札幌市	次世代の子どもたちが笑顔で暮らせる持続可能な都市・「環境首都・SAPPORO」
	宮城県東松島市	全世代グロウアップシティ東松島
	秋田県仙北市	IoT・水素エネルギー利用基盤整備事業
	山形県飯豊町	農村計画研究所の再興『2030年も「日本で最も美しい村」であり続けるために』
	茨城県つくば市	つくばSDGs 未来都市先導プロジェクト
	石川県珠洲市	能登の先端“未来都市”への挑戦
	石川県白山市	白山の恵みを次世代へ贈る「白山SDGs未来都市2030ビジョン」
	長野県	学びと自治の力による「自立・分散型社会の形成」
	静岡県静岡市	「世界に輝く静岡」の実現 静岡市 5 大構想×SDGs
	静岡県浜松市	浜松が「五十年、八十年先の『世界』を富ます」
	愛知県豊田市	みんながつながる ミライにつながるスマートシティ
	三重県志摩市	持続可能な御食国の創生
	大阪府堺市	「自由と自治の精神を礎に、誰もが健康で活躍する笑顔あふれるまち」
	奈良県十津川村	持続可能な森林保全及び観光振興による十津川村SDGsモデル構想（仮称）
	岡山県岡山市	誰もが健康で学び合い、生涯活躍するまちおかやまの推進
	広島県	SDGsの達成に向けて平和の活動を生み出す国際平和拠点ひろしまの取組を加速する～マルチステイクホルダー・パートナーシップによるSDGsの取組の強化～
	山口県宇部市	「人財が宝」みんなで作る宇部SDGs推進事業～「共存同栄・協同一致」の更なる進化～
	徳島県上勝町	SDGsでSHLs (Sustainable Happy Lives) 持続可能な幸福な生活

平成30年度・令和元年度 SDGs未来都市等 選定都市一覧

平成30年度選定（全29都市） ※都道府県・市区町村コード順

都道府県	選定都市名	都道府県	選定都市名
北海道	★北海道	静岡県	静岡市
	札幌市		浜松市
	ニセコ町	愛知県	豊田市
	下川町	三重県	志摩市
宮城県	東松島市	大阪府	堺市
秋田県	仙北市	奈良県	十津川村
山形県	飯豊町	岡山県	岡山市
茨城県	つくば市		真庭市
神奈川県	★神奈川県	広島県	★広島県
	横浜市	山口県	宇部市
	鎌倉市	徳島県	上勝町
富山県	富山市	福岡県	北九州市
石川県	珠州市	長崎県	壱岐市
	白山市	熊本県	小国町
長野県	★長野県		

令和元年度選定（全31都市） ※都道府県・市区町村コード順

都道府県	選定都市名	都道府県	選定都市名
岩手県	陸前高田市	滋賀県	★滋賀県
福島県	郡山市	京都府	舞鶴市
栃木県	宇都宮市	奈良県	生駒市
群馬県	みなかみ町		三郷町
埼玉県	さいたま市		広陵町
東京都	日野市	和歌山県	和歌山市
神奈川県	川崎市	鳥取県	智頭町
	小田原市		日南町
新潟県	見附市	岡山県	西粟倉村
富山県	★富山県	福岡県	大牟田市
	南砺市		福津市
石川県	小松市	熊本県	熊本市
福井県	鯖江市		大崎町
愛知県	★愛知県	鹿児島県	徳之島町
	名古屋市		
	豊橋市	沖縄県	恩納村

※黄色網掛けは「自治体SDGsモデル事業」選定自治体

※★はSDGs未来都市のうち都道府県

地方創生SDGs官民連携プラットフォームについて

- ◆ 内閣府では、我が国におけるSDGsの国内実施の促進及びそれに資する「環境未来都市」構想を推進し、より一層の地方創生につなげることを目的に、地方自治体・地域経済に新たな付加価値を生み出す企業・専門性をもったNGO・NPO・大学・研究機関など、広範なステークホルダー間とのパートナーシップを深める官民連携の場として、平成30年8月31日に地方創生SDGs官民連携プラットフォームを設置した。



SDGsの達成と持続可能なまちづくり(経済・社会・環境)による地方創生の実現

官民連携による先駆的
取組(プロジェクト)の創出

活動内容

1. マッチング支援

研究会での情報交換、課題解決コミュニティの形成

2. 分科会開催

会員提案による分科会設置
課題解決に向けたプロジェクトの創出等

3. 普及促進活動

国際フォーラムの開催、展示会への出展
メールマガジン発信、プラットフォーム後援名義発出等

プラットフォーム役員

会長：北橋 健治 北九州市長

副会長：一般社団法人日本経済団体連合会

幹事：村上 周三

一般財団法人建築環境・省エネルギー機構 理事長

幹事：蟹江 憲史

慶應義塾大学SFC研究所xSDG・ラボ 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授

プラットフォーム会員数 (令和元年5月末時点)

地方創生SDGs官民連携プラットフォーム会員数は**724団体**

【会員内訳】

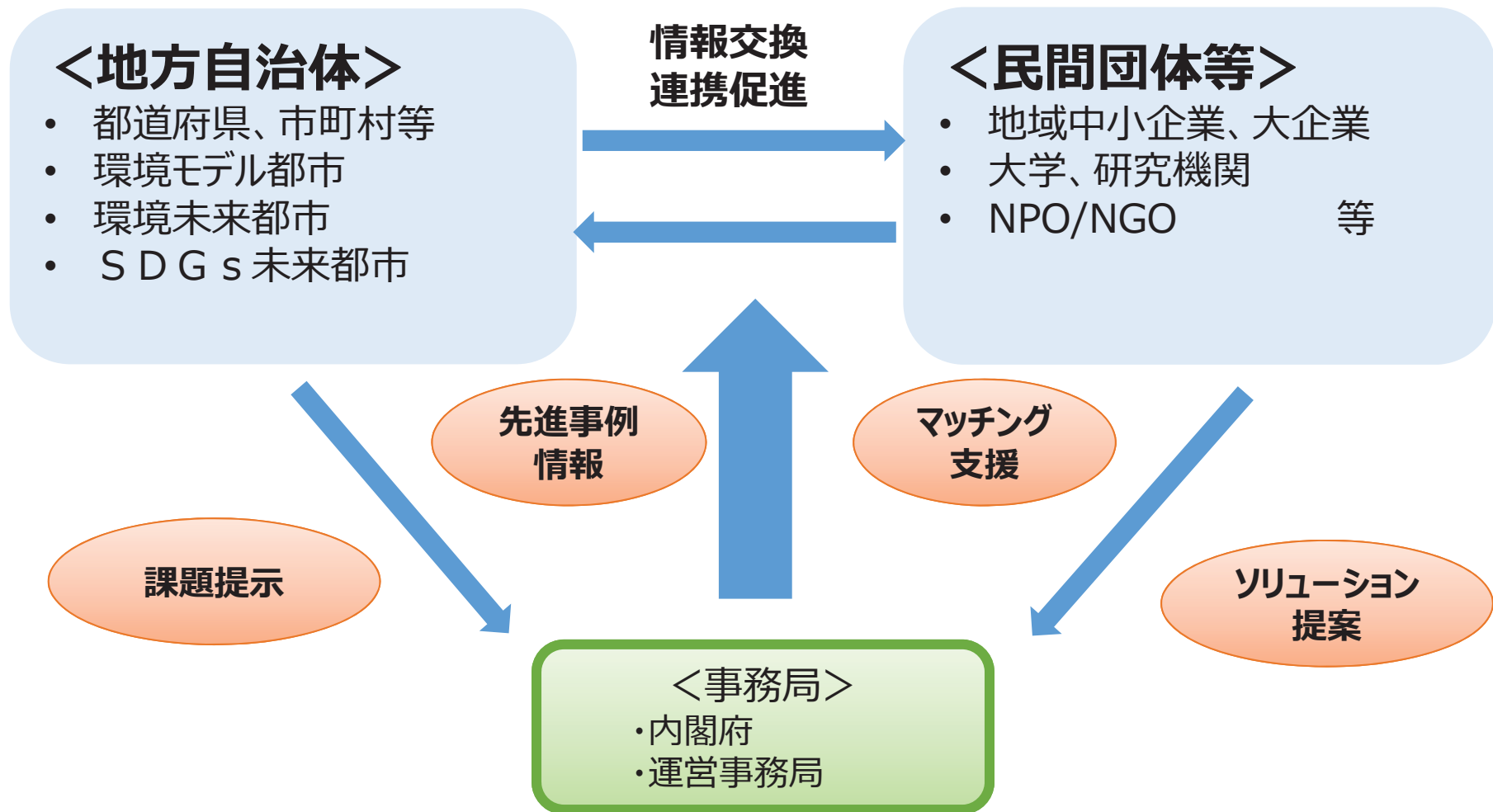
1号会員 (地方公共団体) ……**274団体**

2号会員 (関係省庁) ……**12団体**

3号会員 (民間企業等) ……**438団体**

地方創生SDGs官民連携プラットフォームについて(マッチング支援)

- ◆ 将来像を実現するための課題と、それを解決するノウハウや知見の共有が進むよう、プラットフォームが情報共有の基盤となり、官民（官同士、民同士の場合もあり）の情報共有を促進。



地方創生SDGs官民連携プラットフォームについて(分科会開催)

- ◆ 会員からのテーマ提案にもとづき分科会を設置。**異分野連携による新たな価値の創出**や、共通する課題に対する**官民連携を促進、地方創生に資するプロジェクトを創出**。

令和元年6月末時点で**25分科会**が設立され、官民連携に向けた取組を実施している。

将来像からバックキャストのテーマ例

健康長寿	人生100年時代に長く活躍するためには？		
教育	誰もが質の高い教育を受けるためには？		
働き方	全国どこでも高い生産性を発揮するためには？		
機会平等	誰もが等しく職を得る社会を築くためには？		
地産	地域の資源を生かして経済を潤すためには？		

.....

多様な主体の水平的連携により、新たな価値創出及びコンソーシアムの形成

課題解決に向けた共通の課題のテーマ例

地域資源活用	企業のビジネスを通じて、地域課題を解決する官民の共創事業モデルを創出 —食・農、森林、海洋資源 等
地域課題×技術	地域課題を民間企業等の技術・ノウハウで解決するモデルを創出 —Society5.0、AI・IoTの活用 等
金融(地域金融)	地域課題を解決する事業に対するファイナンス支援のモデルを創出 —ソーシャルインパクトボンド・ファンド・ESG等
人材育成	課題解決に貢献する地域のアントレプレナーシップを育成するモデルの創出 —ローカルベンチャー 等
プラットフォーム	課題と解決策をマッチング(イノベーション)するパートナーシップモデルの創出 —フューチャーセンター、リビングラボ等
普及・学習	多くの人々がSDGsを理解し、達成に向けた行動を起こす普及・学習モデルの創出 —シンポジウム、コミュニケーションツール等

.....

官民連携で課題解決を図るプロジェクト創出

地方創生SDGs官民連携プラットフォームについて(普及・展開)

- ◆ 各種シンポジウム・セミナー・展示会等の機会を活用した普及促進。
- ◆ 会員が開催するシンポジウムやセミナーに対する、本プラットフォームの後援名義の発出等。
- ◆ ホームページ等による優良事例や関連施策の情報発信等。

プラットフォーム総会及び関連イベントの開催

プラットフォームへの加入促進、官民連携による具体プロジェクト創出を目的に、**地方創生SDGs官民連携プラットフォーム総会及び関連イベント**を開催

● 第2回総会及び関連イベントについて

主催：地方創生SDGs官民連携プラットフォーム
日時：令和元年8月26日(月) 13:30~19:00
会場：TKPガーデンシティ品川
来場者対象：地方創生SDGs官民連携プラットフォーム会員



第1回総会の様子

メールマガジン配信

会員主催のSDGsイベントの情報等の発信や課題解決に向けた技術・ノウハウの確認照会

国際フォーラムでの取組の普及・展開

国内外の各都市や有識者に登壇いただき、世界共通の課題である環境問題・超高齢化の課題解決に向けて議論する国際会議を開催。

● 第1回 地方創生SDGs国際フォーラム (平成31年2月)



都市によるステージイベント



パネルディスカッション

後援名義

会員主催のSDGsに関するイベント・講演会に対し、後援名義を発出し開催を支援

地方創生に向けたSDGs金融の推進のための基本的な考え方

報告書構成

I. はじめに

1. 本報告書の背景・目的

- ① 地方創生をめぐる現状認識
- ② 地方創生に向けたSDGs達成の取組の現状
- ③ 地方創生SDGsの達成に向けた地域事業者、地方公共団体並びに金融機関の役割の重要性
- ④ SDGs金融の現状と地方創生への展開
- ⑤ 地方創生SDGs金融を通じた自律的好循環の形成

2. 地方創生SDGs達成に向けた取組の現状

- ① 政府におけるSDGs達成に向けた取組
- ② 内閣府におけるSDGs達成に向けた取組

II. 地方創生に向けたSDGs金融の推進のための基本的な考え方

1. 自律的好循環の実現に向けた各ステークホルダーに求められる役割

- ① 地方公共団体
- ② 企業
- ③ 地域金融機関(地域銀行・信用金庫・信用組合・農漁協・大手銀行等の支店舎)
- ④ 機関投資家・大手銀行・証券会社 等
- ⑤ 市民等
- ⑥ 政府

2. 地方創生SDGs金融フレームワークの構築

- ① フェーズ1: 地域事業者のSDGs達成に向けた取組の見える化
- ② フェーズ2: SDGsを通じた地域金融機関と地域事業者の連携促進
- ③ フェーズ3: SDGsを通じた地域金融機関等と機関投資家・大手銀行・証券会社等の連携促進

III. 今後の展開

今後の展開

- **地域の課題解決に向けては、SDGsの取組が一層推進されることが望ましい。**そのためには、**金融機関を含む多様なステークホルダーとの連携**により民間資金が地域社会に供給されることが必要である。また、世界的にも**機関投資家等が投融資の判断材料の一つとしてSDGsを捉える動きが急速に拡大**している。このため、**政府が地方創生SDGsに積極的に取り組む事業者や地域金融機関に適切なインセンティブを与え、地方創生SDGs金融を形成**していくための取組を推進していくことが期待される。
- 「**地方創生SDGs金融フレームワーク**」は、企画の概要を示したもので、具体化に向けて検討すべき課題が多々残されていることから、**引き続き詳細の検討を進めることが求められる。**また、フレームワークの実現には**多様なステークホルダーの参画が必要不可欠**であり、今後の検討にあたっては、意見交換等を通じ、より実現性の高い制度にする必要がある。

地方創生に向けたSDGs金融を通じた自律的好循環の全体像

SDGsを原動力とした地方創生に取り組む企業・事業の拡大



地方創生SDGs金融フレームワーク

